



『理由も分からず受ける人生の苦難の時』

聖書本文:ヨブ記2章3-13節/ 暗唱:ヤコブの手紙5章11節 説教:鄭南哲牧師

(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！先週一週間もお元気でしたか。我らは続いて、続く苦難と苦しみの意味とどう生きるべきなのか学ばされています。先週我らは、ヨセフの波乱万丈の人生を通して、他人によって受け続く人生の苦難の時にどんな信仰に基づき、どのように実際行うべきなのかについて一緒に学ばされました。復習の意味として、もう一度振り返って見ますと、ヨセフが、連続の試練の中で、悲劇的な状況の中でも耐え忍び、思わぬ人生の逆境を乗り越えることができた自らの試練の人生の中で見出した3つの大切な真理に基づいて生きていたことを聖書を通して教えられました。

①神は今自分が体験しているすべてご覧になり、心に留めておられる！

ヨセフの身に危険や問題が迫るたびに、39章だけで3回に渡って繰り返されている重要な一文があります。

「しかし、主はヨセフとともにおられた。(創世記39章2、21、23節)」

②神はすべての人々に選択の自由を与えられた！(神様は、すべての人々に選択の自由を与えられたということ)

③神が事の成り行きすべてを究極的に治めておられる！ヨセフが他人によるトラブルに巻き込まれている人生の中で見出した真理は、神は、事の成り行きすべてを究極的にコントロールしすべてを治めておられるということでした。

被害者だったヨセフは、他人による連続の試練の中で実際どのような態度と行いを続けて変わらず取りましたか。

①まず、ヨセフは、自己憐憫に陥りませんでした。

今日自己憐憫は、うつを引き起こす大きな原因の一つでもあります。ヨセフは人生の貴重な時間を自己憐憫に費やしている暇はありませんでした。自分を責めず、今おかれている危機的状況の責任が自分にはないことを、冷静に見分け、受け止めようと努めました。

②ヨセフはだれかに恨みを抱かなかったことです。

ヨセフは、恨みという余計なお荷物のために、人生の貴重なエネルギーを費やす価値はないとしっかり線を引いておきました。

愛するみなさん！もし、だれかを恨みたいという誘惑がある時、私たちはどうしたら、良いのでしょうか。

そのつらい思い、傷ついた心を主にゆだねることです。ヨセフはそうしました。

ヨセフは、神様への信仰と希望を持ちつつ、最終的には神様がすべてを働かせて益としてくださることを信じて信仰に立ち続けました。

ヨセフの逆境の中勝利を得た一番大切な態度は、どんな時にも自分自身に向かうの神様の計画と約束を忘れなく、握っていたことです。

「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。(ローマ人への手紙8:28)」

この御言葉を心から信じる方々は、我らも究極的にヨセフのようにこう告白が出来るように必ず導いて下さると信じます。「あなたがたは私に悪を謀(はか)りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとしてくださいました。

それは今日のようにして、多くの人が生かされるためだったのです。(創世記50:20)」とですね。

愛するクリスチャンプレイズの信仰の家族のみなさん！我々の人生の物事がうまくいかないときがあります。特に今のようなコロナ禍の長期化が続いている中まさにその真っ最中かも知れませんが、色々制限されたり、自分が願っている通りに、思い通りならず、断れる時も多くあるかも知れませんが、イエスキリストの十字架が、人が考え出した最悪の罪の究極(きゅうきょく)の見本でしたが、神様はそれさえも益としてくださり、人類の救いと祝福のためにイエスキリストの贖いを通して用いられたのです。

神様は今私たちが直面している問題よりも偉大なお方です。もちろん、苦しみの時を過ごしている途中には、神様がそこにも働いておられることを理解するのは我らにとってはとても難しいかもしれませんが、しかし、後になって振り返ってみると、事態がよりよく理解できるようになるでしょう。あの時、神様が何をしておられたのか、そして、その出来事をどのように神様が用いて下さったのか分かるようになると信じます。アーメン！

< 1. 理由が分からない苦難を受ける時 >

人間の観点からみて苦難には三つの種類があります。

一つはイエス・キリスト、つまり神様のために受ける苦難の時があります。これは苦難の理由がはっきりとしています。御言葉通り、信仰を守るための苦難の時です。クリスチャンらしく、ふさわしく生きるためにはこの世での

苦難は避けられないかも知れません。不義の時代に信仰によって生きようとするとき、苦難を受けなければならぬ時があります。今も全世界の中で、キリストを信じる信仰のゆえに受けている多くの迫害や苦難の時から始め、日々身近な生活の中で、職場の中で、信仰を守り続けるために人々から受ける苦難の時もあります。

二つ目は、人(自分や他の人)の過ち、自分の罪により招いた苦難の時もあります。

自身や他人が間違っていることを、良くないことを知っていながらも自制出来ず、どうしても抑えられなかった欲望や間違った選択と行いのため招いてしまった結果的な苦難の時もあります。

三つ目は、人生の中でわけも分らず受ける苦難の時もあります。なぜ、自分が苦難を受けているのかまったく分かりません。正しく生きてきたのに、主のために生きているのになぜ、こんなにつらい苦難が来て経験しているだろうと。例え、昨年から新型コロナウイルスによって受けているこの苦難や、10年前東北であった大地震や、先日10年ぶりまた起こった地震による被害や苦しみも、この中で苦難の一つかも知れません。

実は、我々が信仰生活をしている中でも、なぜある時にどんな時より、だれよりも、神を信じ愛する敬虔な生活を送り、頑張っただけで神様が喜ばれる奉仕も熱心にやって来ているのに、思わぬ苦難を受けなければならない時があるでしょう。そして、逆に、この世の中不義、悪い不正を行っている人々がいるのにも、なぜか彼らは堂々と生きているかのように見える不公平だと思われる時がありませんでしたか。

実は、今日の本文のヨブが受けた苦難がこのような苦難でした。それで、ヨブは苦しい中で、このように質問します。神様は善であり、全能なる方なのに、なぜ正しい人にも苦難を受けるように許しておられるのか。神様を信じ、神に喜ばれる敬虔な信仰生活をする人にもなぜ、どうして、苦難があるのですか？ 反面、神様を侮って、他人に悪を行う人々はうまく行って、平安でいられるのはなぜでしょうか。我々が信じる神様は本当に正義の方でしょうか。と問いかけを聖書でさかのぼって行くと、この質問をした最初の人ヨブでした。

理由がどうしても分からない人生の中で思わぬ連続の信連と苦難について、問いかけるすべての人生に解答として与えられた神の御言葉がまさにヨブ記という聖書であるわけです。

みなさんもよくご存知ですが、始めから申し上げますと、神を信じ神の前で敬虔に生きる人であってもこの地上での人生の中で苦難の時がある！そして、苦しい苦難にはかならず神様のご計画と摂理があることをヨブ記は教えて下さっています。人は苦難の理由を全部分りませんが、神様はすべてご存じであるからです。

<2. ヨブ記について>

今日は、先週他人によって苦しみ続けられたヨセフの人生とはまた、まったく違って人生の中で、他人や自分よって招いた苦難でもまったくない、何の理由で、どうして受けなければならない苦難なのかも分からず、受け続けて来たヨブの人生について神の御言葉は42章にまで特別に証しして下さっています。

それではまず、詳しく今日の本文に入る前に、まず、ヨブ記とはどんな聖書なのか全体的に学んで見ましょう。

ヨブ記とは詩篇、箴言、伝道者の書、雅歌とともに旧約の詩歌書(ししかしよ)に属する聖書です。

そして、ヨブ(Job)と名前の意味は「憎まれる者(ヘブル語:アエブ)・悔い改める者・願う(アラブ:アバ)」 意味があります。ヨブは族長時代の事実人物(創世記)であります。

ヨブ記は1-2章が序論(じょろん)に、3章-42章6節まではヨブ記の本論(ほんろん)であり、最後の結論が42章7-17節までであります。このヨブ記では神様を真実に信じていたヨブが思わぬ、受ける苦難の内容と苦しみの日々の中であっても最後まで神を信じる信仰から離れず、神を裏切らず、変わらず神様を信じ続け頼る内容が記されています。

<①神に認められる信仰を持って大いに祝福されたヨブ>

まず、ヨブはウツという地で住んでいたとても信仰深く敬虔な人だったことが分かります。

1章1節「ウツの地に、その名をヨブという人がいた。この人は誠実で直ぐな心を持ち、神を恐れて悪から遠ざかっていた。」に、ヨブがどんな人だったのかを明かしながら始まっています。聖書の始まりに一人の人間についてこれほど大きい称賛で始まる御言葉はありません！彼が住んでいたウツという地はエドム(創世記36:28, 哀歌4:21)というところですが、今のイラクとサウジアラビアの国境地帯(ちたい)にあるところです。ヨブが住んでいた時代は確実ではありませんが、大体みんなアブラハムやイサクが住んでいた族長(ぞくちょう)時代(紀元前(BC)約2000年頃)だとみなされています。エゼキエル書14章14節(「たとえ、そこにノアとダニエルとヨブの、これら三人の者がいても、彼らは自分たちの義によって自分たちのいのちを救い出すだけだー神である主のことば。」)を参考にすると彼は空想の中作り上げられた者ではなく、歴史上実際の人物であったことに間違いありません。

ヨブは神に認められるほど、正しく、信仰にあって神に認められ喜ばれた敬虔な信仰の人でありました。ヨブ記1章8節によると、ヨブを試みようとするサタンに神はこう言われました。「主はサタンに言われた。「おまえはわたし

のしもベヨブに心を留めたか。彼のように誠実で直ぐな心を持ち（潔白(けっぱく)で正しく（新改訳3版））、神を恐れて、悪から遠ざかっている者は、地上にはひとりもない。」

そして、2章3節「主はサタンに言われた。「おまえはわたしのしもベヨブに心を留めたか。彼のように、誠実で直ぐな心を持ち、神を恐れて悪から遠ざかっている者は、地上には一人もない。彼はなお、自分の誠実さを堅く保っている。おまえは、わたしをそそのかして彼に敵対させ、理由もなく彼を呑(の)み尽そうとしたが。」」にも同じくヨブについて神は変わらない素晴らしく評価してくださいました。神様は二回もヨブの信仰と敬虔な生き方を認めて下さいました。神様はヨブを“わたしのしもべ(my servant)”と言われました。これは神様の特別な認定を意味します。人には認められのはたやすくはないのに、ヨブは人だけではなく、神様にまで認められたというのは神の前で、彼の信仰と実際の生活の生き方がどれだけ素晴らしかったのか十分理解することが出来るでしょう。

そして、ヨブの信仰が神様に認められただけではなく、地上での生活も、ヨブは大いに神に祝福されていたことが分かります。1章3節によると、「彼は羊七千匹(びき)、らくだ三千頭(とう)、牛五百びき、雌(め)ろば五百頭、それに非常に多くのしもべを所有していた。この人は東の人々の中で一番の有力者（富豪(ふごう)）であった。」

昔ヨブの当時、家畜は富の象徴でした。それに、家庭には、7人の息子と3人の娘で幸いなお父さん(1:2)でした。神様認められた信仰の人だったのみならず、驚くほどの富も持ち、和睦は家庭に恵まれ、祝福されていたすごい人であったことが分かります。もっと驚くのは、しかし、ヨブはこな多くの富にあまり欲張らず、そこに人生の幸福を心の中で置かなかった人だったことが分かります。31章24節～25節を見て見てください。ヨブは今までの人生を振り返ってこう告白しています。「もし、私が金(きん)を自分の頼みとし、黄金に向かって、「私の抛り頼むもの」と言ったことがあるなら、25あるいは、私の富が多いことや私の手が多く得たことを喜んだことがあるなら、」なのに、このヨブにわけがわからない試練が連続に訪れました。

<②理由も分からずヨブに連続に襲って来る耐え難い苦難の苦しみ>

ある日、サタンはヨブを試みます。神様はヨブを潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっている者だと言った時、サタンは神様にこのように訴えます！“ヨブが何の利益もないのに、神様を信じるわけがありません。神様が彼に富を与え、家畜が溢れるほど与えて下さったので、あなた様を恐れ信じているのです。ですから、彼の持っている財産やものすべてを奪い取って取り上げて見て下さい。すると、きっと間違いなく神様、あなたを呪いながらあなたから離れて行くのに間違いありません。”（1章9-11節）

この本文によると、サタンは実際存在し、活動していたことが分かります。同時にサタンはあくまでも神様の支配の下にあって、神様の許される範囲内でのみ、動いていることも分かります。

<①すべての財産を失う>

そういうわけで、サタンによって、ヨブに突然理由もなく、巨大な津波のように一気に試練が襲って来ます！一人のしもべがやって来て、牛とろばが強盗に襲われ、全部略奪されたこと、牧童（ぼくどう）たちも一人だけ逃され、他はみんな打ち殺されたと知らせて来ます(15節)。その報告がまだ終わらないうちに、また別の使者がやって来て、天から神の火が降って、羊も羊飼いもみんな焼け死んでしまったと知らせます(16節)。ここで、「神の火」というのは当時の火山の噴火(ふんか)のことを指していたと思います。しかしその言い方「天から」、「神の火が下った」と言う言葉には神への何か恨(うら)めしい思い、恐れている感情が込められていたことが分かります。しかし、そこで終わりません。17節には、その報告が終わらないうちに、また一人の使者が走って来ます。カルデア人3組のならず者たちが襲って来て、らくだを全部奪い取り、働いていたしもべたちはみんな打ち殺されてしまったとのことでした。それで、ほとんど飼っていた家畜を失い、所有していたほとんどの財産がなくなってしまいました。

<②突然の事故で子ども10人全員なくなる>

また、おいかぶせるように、決定的な知らせがもたらされます！19節から見ると、長男の家で宴会をしていた10人の子どもたちに荒野の方から大風(おおかぜ)つまり、突風が吹いて来て、家の四隅(よすみ)を打ち、あおられて家が崩壊してしまい、その家の中にいたヨセフの子どもたちや働いていた全員その場でなくなってしまったとのとんでもない衝撃な知らせでした。

それを聞いたヨブは愛する子どもたち10人全員をあんなとんでもない突然の事故によって失い、所有していた彼のすべての働き人や家畜、ものをほとんど失う試練にショックで受け入れがたく、20節に、彼「ヨブは立ち上がって、上着を引き裂き、頭を剃り、地にひれ伏して礼拝し(ヨブ記1章20節)」たと記されています。

これはヨブがこの世界で所有していた地位や名声や誇り、その一切を捨てて神の前に裸になったことを意味しているます。

<③ヨブの身に起こった病の試練：体の足の裏から頭の頂まで出来た悪性の腫物>

そこでヨブに襲って来た試練が終わったわけではありません。

それだけではなく、サタンはふたたび、ヨブを試みます。サタンはヨブの自身の身が苦しめられれば、健康が失え

ば、かならず、神様を呪い、恨みながら、離れるだろうと思ひ、試練を起こします。
すぐさま、ヨブの体に大した苦しみが訪れます。2章7節によると、ヨブの体の足の裏から頭の頂まで悪性の腫物(しゅもつ)ができ、その痛みと苦しきは耐えられないほど、ひどさだったでしょう。

<④今まで信頼し、愛していた人々から捨てられ、裏切られ、裁かれ、苦しめられる>

それだけではなく、2章では、全てを失い、顔が分からないほど悪性の腫物で患っていたヨブに今まで信頼し、愛していた人々から捨てられ、裏切られ、裁かれ、苦しめられます。

そんなひどい苦しみの中にいる時、ヨブの妻はヨブにもう神をのろいながら死ねよ(2:9)と言って、彼から離れて行きます。11節から、ヨブの大切な親友だった3人の友達である、エリファズ、ビルダデ、ツォファルが訪ねてきましたが、ヨブであることが見分けられないほどひどくなっていたヨブの症状を見て、神を信じていた友達は心からヨブを慰め助けようとするより、むしろ、ヨブあなたの罪から生じたすべての結果ではないかと勝手に言いながら、罪を犯してもなかったヨブに無理やり罪の告白をするように強要します。

そして神に向けて自分の信仰をこう言い表しました。

それにもかかわらず、ヨブはこのように告白します。1章21節です。「私は裸で母の胎から出て来た。また裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」”、そして、今日の本文10節に、自分と神を呪い死ねよと言われた妻に対しても、こう語ります。「しかし、彼は妻に言った。「あなたは、どこかの愚かな女が言うようなことを言っている。私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざ受けるべきではないか。」ヨブはこのすべてのことにおいても、唇によって罪に陥ることはなかった。」

ヨブは自身にあるすべて失って到底耐えられなさそうなその時！神様の前にひれ伏し、神の前で礼拝をしながら、むしろ、神を恨まず、すべては神から与えられ、また神が取られるすべての主であられ、治めておられるお方であることを認め、告白した内容です。

ヨブ記を通して、我々の気を引き、信じられないヨブの信仰と姿は、それにも関わらず、ヨブが最後まで神様への揺るがない信仰と誠実な姿勢で一貫し、変わらなかったことです。彼は理由も分からず、他の人のせいでも、自分の罪のせいでもないのに、所有していたすべての財産を失い、子どもの命が突然の事故によってみんな失い、全身悪性の腫物で肉体は耐えがたい苦しみで、心では頼りになっていた妻や親友の人々から裏切られ、捨てられ、避難され続けました。理由もなく苦しめられ続けられたのにも関わらず、ヨブは神様を信じ続け、最後まで神様から離れませんでした！理由も到底分からず肉体的、精神的、霊的な苦難の苦しみの連続な状況にあっても、最後まで耐え、変わらず神を仰ぎ見、信頼し信仰を守り抜いたヨブの姿が証しされ、ヨブ記には詳しく書かれています。

<3. どうして神の前で信仰をもって誠実に生きる者にも苦難はあるのか>

ヨブ記ではなぜ神様をちゃんと信じ正しく生きていた人が苦難を受けないといけないのかを問いかけています。しかし、愛する信仰の家族のみなさん！苦難はかならず、罪や悪に対する処罰(しよばつ)のためだけではありません。人間の過ちや罪から来る苦難もありますが、ヨブのようにこの世の中では神に愛され、神の前で正しく生きている人にも苦難を受ける時もあります。

①どんなに神を誠実に信じ神の前で正しく生きる人も苦難を受ける時もある！

ヨブ記31章を見て見て下さい。ヨブは神様の御前で徹底的に信仰によって生きてきたと告白します。若い女に目を留めたこともないし(31:1)、寄る辺のない者の望みを拒んだこともないし、目の前にいるやもめのような大変な人々を助けなかったこともなく(16節)、光る日のみで、それに拜んだこともありません(26節)。自分を憎むものを憎みませんでした(29節)。正しい量りで私を量ってみたら、神様は私の潔白(けっぱく)を分かって下さるでしょう(31章6節「神は私を正しい秤(はかり)で量られればよい。そうすれば神に私の誠実さが分かるだろう。」)と告白します。それにもかかわらず、彼にも苦難の時が来ました。神様はヨブのような信仰の義人にも苦難を与えろと言う事を表しながら、苦難はかならずしも、罪に対する処罰ではない事をも表してくれます。

②神はすべてを治めておられるから、私を守り、助け、必ず正しい道に導かれる！

むしろ、ヨブ記は苦難を通して、我々の信仰がもっと強められ、新たにされるのを教えて下さいます(ヨブ32-37章)。苦難を通して、すべての主権は神の御手にあり、いくら全てを手に入れたとしても、人の人生には限界があり、限られているものであること自覚させられ、神の前でもっとへりくだらされ、もっと神様を頼るようになり、もっと信仰が純粋にされます！苦難を通ったヨブの信仰はどうされたのでしょうか。

ヨブ記23章10節、42章5節ヨブの信仰告白をご一緒に読んでみましょう。

「しかし神は、私の行く道を知っておられる。私は試されると、金のようになって出てくる。」

「私はあなたのことを耳で聞いていました。しかし今、私の目があなたを見ました。」

愛する信仰の家族のみなさん！今はみなさんが経験している苦難の意味が分からなくても、その苦難を許してください。神様の摂理があります。思わぬ苦難にあった時、この苦難の中にはかならず神様の確かなご計画があることを覚え、信じてください。先週の旧約のヨセフ(創世記37-50章)がそうではありませんか。彼は突然の苦難の意味を分りませんでした。神が事の成り行きすべてを究極的に治めておられますから、後になって神様の御民を助け救うためであったことが分りました。(45章7-8節、50章20節)

我々が覚えなければならないことは思わぬ理由が分からない苦難の中を歩いていても、神様は我々を導き、耐える力、信仰と時には避ける道をも備えて下さると言うことです。

第一コリント10章13節にこう書かれています。「あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに、脱出の道も備えていてくださいます。」

むしろ、我々を通して神の御心がなされるため、神の栄光のための苦難もあります。イエス様が道を通る時、生まれつきの目の見えない人がいました。弟子たちはイエス様に聞きました。この人の目が見えないのは誰の罪のせいですか？自分の罪のためですか、それとも親の罪のためですか？(ヨハネ9:1-2)弟子たちは罪の結果だと思い込んでいました。しかし、イエス様はこのように答えました。「イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。この人に神のわざが現れるためです。(ヨハネ9:3)」つまり、目の見えなかった人の苦難は神様の栄光のために与えられたわけです。

そして、実は、罪のないイエスキリストご自身も罪ある人々の赦しと救いを与えようとされた神の御心が全て成し遂げられ、神の栄光があらわされるように、十字架の苦難を受けられました。

③かならず神は新たに私を回復させ、さらに祝福して下さる(2倍の祝福・子供の祝福・健康・満ち足りる祝福)
クリスチャンプレイズの信仰の家族のみなさん！ヨブの話が苦難で終わってしまうなら、とっともくやくしく、不公平だと思われるかも知れません。

ヨブ記を通して神様はヨブを苦しみのままさせないで、ヨブを癒し、新たに回復させ、さらに祝福して下さいました。！ヨブ記42章12節(2倍の祝福「主はヨブの後の半生を前の半生に増して祝福された。それで彼は羊一万四千匹、らくだ六千頭、牛一千くびき、雌ろば一千頭を持つことになった。」)を見て見て下さい。つまり、神様はヨブに以前の財産より二倍に回復させてくださいます。羊1万4千頭、らくだ六千頭、牛一千くびき、雌ろば一千頭を持つ事になります。そして、ふたたび七人の息子と三人の娘を産まれました。特に3人の娘の祝福に満ちて、この娘たちにまで財産が与えられるほどヨブも一族は以前より豊かになったと言われているのです。ヨブはその後140年生き、子、孫、4代の先まで見る事が出来た。ヨブは140年間長寿しました。神様は新たな家族を取り戻して下さり、彼の全ての所有も倍に回復させて下さいました。(42:10-15)そして、いのちをはるかに長く長生きすることも許して下さいました。神様は一時的に苦難を許しますが、最後まで神様を信じる者に永遠の涙と苦しみのままにさせるお方では決してなく、すべてを回復させ、さらなる祝福を与えて下さるお方である事を忘れないで下さい。

<ヨブ記の教訓：どんな状況にあっても我らも神を仰ぎ見、信じて、忍耐を保って委ねて行きましょう>

もう一つだけ申し上げて終わりたいと思います。すべての所有と財産を全部失った時、ヨブの信仰の態度はどうでしたか。1章6節にも、2章1節にも“ある日”という言葉が繰り返されています。これは予想もつかなかった苦難の始まりを言っています。ヨブは一切予想も、思いもしなかった日に起こったということです。彼に吹いて来た不幸は瞬間的でした！どんなにくやくしく、もどかしかったでしょうか。それにもヨブは神様を恨みませんでした。むしろ、どう言っていますか。「私は裸で母の胎から出て来た。また裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。(ヨブ1:21)」

耐え難い試練の中にも神様をほめたたえました！ヨブの妻でさえ、見ていられないほどのヨブの苦しみと肉体の痛みをみながら、神を呪って死ねと言われた時、ヨブはこう返事しました。「私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざいも受けるべきではないか。(ヨブ2:10)」

人生の中で時には、理由も分からず、思わぬ苦しみが誰にも訪れる時があると言うことはみな同じです。しかし、苦しみに向かう人の反応と態度はみな同じではありません。ある人はわずかな苦しみに会っても神をのろって侮ります。しかし、ヨブはきわめてひどい苦しみにあっても忍耐し、神様を賛美しました。ここに大きな違いがあります。ヨブ記は新約で一度引用されました。それがヤコブの手紙5章11節です。

「見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いだと私たちは思います。あなたがたはヨブの忍耐のことを聞き、主によるその結末を知っています。主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられます。」

“あなたがたはヨブの忍耐のことを聞いています。”と言われながら一つ教えられているのが、ヨブの信仰の忍耐のことでした。我々はほんの少しだけの苦しみがあるとすぐ神様を恨んだり、神様への信仰が揺さぶりやすくなり

ますが、忍耐をしなければなりません。信仰によって正しく生きていても苦難はやって来る時もあります。
「死の陰の谷を歩むとしても私はわざわざいを恐れませんが、あなたがともにおられますから。(詩篇23篇4節)」
人生は思わぬ「死の陰の谷」を歩く時もあるかも知れませんが、暗くて辛い道ですが、災いはありません。
神と一緒に歩いていてくださいます。この谷の道はもう一つの深い神の世界に必ず繋がっているのです。

私たちはその理由を分らなくても神様はご存知です。神様は我々の有益のために時には苦難をも許されます。
しかし、その苦難にも神様のご計画があります。理由も分からず、苦難の時を通る時こそ、ヨブの信仰と忍耐を保
って主だけを仰ぎ見、信頼し委ねて歩んで生きましょう。主が必ず、回復させ、さらに祝福に導いて下さいます。

今年1月にアメリカ46代の新しい大統領としてジョーバイデン氏が就任され、今回彼はカトリック信者見たいですが、大体アメリカの大統領の中ではプロテスタントのクリスチャンが多く、最近100年内信仰の面で最も尊敬されている大統領が39代目でノーベル平和賞も受賞したジミーカーター氏です。彼は医者から肺臓癌と診断され、癌細胞が脳にまで転移していると診断され手術を受ける前、記者たちに「私の未来は、私が礼拝する神の御手に委ねるのみであります。私の心は平安で、どのようなことでも受け入れる準備ができています。私は心から永遠なる体験を待ち望んでいます」と言いました。手術後にも、大統領の後続けてやって来た教会学校の子どもたちに毎週聖書を教える奉仕を大事に続けました。そのうちに、彼が受けた癌治療はうまくいき、癌から完全に開放され、今年で96歳を迎えています。あの病から回復されたのも神の特別な恵みですが、どんな立場、どんな状況にあっても揺るがず主を仰ぎ見、信頼し委ねつつ、変わらず教会で子供たちの為喜んで仕えるその信仰の姿勢と生き方こそ、奇跡と恵みの人生ではありませんか!

苦難を経験したヨブの話詳しく全てを記録されてヨブ記には深い意味があるのです。しかし、ヨブは苦難をただ耐え、ただ我慢し続けたのではありません！ヨブはどのような状況にあっても揺るがず、神を信頼して仰ぎ見続けながら、忍耐を保って苦難を、神と共に生き抜いたのです。苦難の中で神に叫び、神に問い、神に祈り、全てを頼りつつ、神に立ち向かいつつ忍ばれ、生き抜いたのです。そして、苦難を体験したヨブはこう神の前で信仰を告白することが出来ました。「私はあなたのうわさを耳で聞いていました。しかし、今、この目であなたを見ます。ヨブ記42章5節」

今の苦難の時が私たちにはその理由を分らなくても神様はご存知です。そして、その苦難には必ず神様のご計画があります。もし今は苦難の意味が分からなくても後になると必ず主の御心を明らかにさせ、知らせて下さいます。そしてそれは、決して我らをつぶし、倒れさせる為ではなく、必ず益とさせ、我らの祝福につながるようになるためしばらく許して下さっていることを忘れず、我らもヨブの信仰と忍耐を学び、いつも握って進んで行きましょう。我らも必ず人生を振り返って見ながらヨブのこのようにこう告白出来るように主が導いて下さると信じます。
「しかし神は、私の行く道を知っておられる。神は私を試されると、金のようになって出て来る。ヨブ記23章10節」
アーメン!

